

～TANKYU～

谷地南部小学校

校内研究だより

2024. 2. 5

No.51 文責 荒木秀

安達先生に学ぶ

49号で、「個人研究発表会」について取り上げました。もう一つ思い出したことがあるので、追記します。

発表後のリフレクションの際に、安達先生が「**学校って、何のために来るの？**」とつぶやいていらっしまったのが、印象的でした。「学校」という自分の中の枠組み（イメージ）を、もう一度見つめ直し、更新する作業を頭の中でされていたのだと思います。回りの先生と話をすることで、納得解を自分の中で見つけられたら（もしくは見つけられないという自覚ができたら）、「シン・安達先生」になられたと思います。

安達先生は、その後に「**みんなと関われるから学校に来るんだ。**」と話されていたように思います。私も全く同意見です。1人ではできない学びを、学校ではできるのだと。私はこのことを、よく塾と比較して考えます。言わずもがなとは思いますが、どちらかがよくてどちらかが悪いと言いたいわけではありません。それぞれの強みがあるということです。

多くの塾は個別学習を売りにしています。「マンツーマンで。」「一人一人に合った。」こんなうたい文句で、たくさんCMが流れていますよね。塾に通わせる保護者としては、「自分の子をちゃんと見てもらえる」という安心感があります。残念ながら、現在の学校では、全てをここまですることは不可能です。

では、学校での学びはというと、先ほどの安達先生の考えに戻ります。「**みんなと関われるから学校に来るんだ。**」1人ではできない学びを、学校ではできます。その強みを、私たち教師は生かしていかなければなりません。人と関わる良さは、コロナ禍を経験した私たちなら、よく理解していますよね。では、**どうやって関わらせるか？**それについては、土田先生が「時習」で、タイミングよく示してくださいました。「時習」を読んでの私なりの解釈を、次号でしたいと思います。みなさんも、ぜひ読んでみてくださいね。たいへん勉強になります。